

**事業者名:株式会社カンダ技工**

■本社所在地:鳥取県米子市河崎 1008-1

■TEL:0859-29-3257

**取組テーマ:地球資源の100%有効活用を目指して**

■事業概要 (自社の技術・製品・サービスなど、主な事業について記載)

機械設計製作(主に食品加工機械・省力化機器の設計製作・メンテナンス)、未利用資源開発事業(未利用資源を利活用した商品開発及び製造、食品の受託加工)、化粧品事業(化粧品の受託製造)

■2030年に目指す姿 (現状を起点とした目標設定ではなく、SDGs 実現に向けた自社のあるべき姿を検討し、記載)

『～人々と共に成長～ものづくりへの挑戦と資源を活かす経営を通して世の中の役に立つ価値を創造する』この企業理念のもと、未利用資源開発事業部では地球資源の100%有効活用を目指しています。上記を行う上では電力を使用する為、太陽光パネルの増設、排熱及び蒸気ドレンの有効活用、J-クレジットの継続購入(50トン/年)等を行ってまいります。またSDGs目標達成の為に会社を持続が不可欠です。社員は人材という資源でもあり、共に成長する為に働き方改革を更に推進していきます。

■SDGsの取組のPRポイント

食品会社の機械設備を製作する中、食品加工工場毎日大量に出る廃棄物(野菜や魚などの製品に使えない部分のいわゆる「ゴミ」)に着目し、何とか再利用できないかと立ち上げたのが未利用資源開発事業部です。

地球上にある全てのモノはその存在理由があり、私たち人間はそれらが無限に有るかのように利用し、廃棄し、自然環境も崩れ出しています。

自然の恵みは循環させてこそ生活が維持されます。安易に何でも捨ててきたツケは必ずいつか自分たちに返ってくるはず。

地球資源に感謝して、100%有効に無駄なく使うということ、これが地球人の責務と考え推進していきます



自社開発商品「海のしずく」  
特許を取得した技術で魚のウロコから抽出した良質なコラーゲンです。



境港総合技術高校とのコラボ開発商品  
「ふるんとせつけん」  
出荷期を過ぎ商品価値が下がった山陰産ワカメから有効成分のワカメエキスを抽出し天然保湿成分として配合したゼリーのような石鹸です。

■3側面の重点的取組

(重点的に取り組む項目を太字とし、現状と今後の目標・取組を記載)

社会		
認証申請した項目に○印	多様な人材の活躍と多様な働き方の促進に重きを置いています。指標となり得る鳥取県男女共同参画推進企業認定、社員の健康づくり宣言事業所認定、イクボス宣言・ファミボス宣言、とっとり子育てプレミアムパートナー登録等を行い、制度としては定年年齢の引上げ(60歳→70歳)、配偶者出産休暇、半日有給休暇、アンバーサラー休暇、夏季休暇の日程自由選定制を導入しました。今後も働き方改革を進めてまいります。	労働災害の防止 ○
		ハラスメントの防止 ○
		女性の活躍 ○
		障がい者雇用 ○
		<b>多様な人材の活躍</b> ○
		<b>多様な働き方の促進</b> ○
		労働者の人権配慮 ○
		社会配慮商品・サービス ○
		地産地消 ○
		地域社会への貢献 ○
	十 世界の子どもたちに向けた支援 ○	
経済		
認証申請した項目に○印	新技術・新製品の開発に向け問題解決力を身に付けるためには <b>人材育成・能力開発</b> は取り組むべき重要課題の一つと考えます。あわせてSDGsに即した経営ビジョンを共通認識にするために、専門家によるコンサルティング支援も活用しながら自社の強みを活かす経営を組織に根付かせます。	BCP策定 ○
		セキュリティ対策 ○
		法令遵守の取組徹底 ○
		情報公開 ○
		後継者の確保 ○
		市場変化への対応 ○
		経営資源活用 ○
		デジタル化・生産性向上 ○
		雇用の維持・拡大 ○
		<b>人材育成・能力開発</b> ○
	十 地元企業の事業継承貢献 ○	
環境		
認証申請した項目に○印	水産・農産・林産の残渣(ざんさ)や廃棄物から食品及び化粧品原料を開発・製造し <b>未利用資源の有効活用</b> を目指し取り組んでいますが、そのために多くの電力を使用し、排出するCO2の増加の懸念があります。その対策としてソーラーパネルの増設、J-クレジットの継続購入、蒸気エネルギーの有効利用と熱回収、雨水の利用等で環境への負担を軽減します。	自社の気候変動リスク ○
		社会変化の気候変動リスク ○
		自社による環境への影響 ○
		燃料消費量の削減 ○
		電力消費量の削減 ○
		再生可能エネルギー ○
		廃棄物の削減 ○
		水資源の適正な管理 ○
		環境配慮型商品・サービス ○
		環境面での社会貢献 ○
	<b>十 未利用資源の有効活用</b> ○	

## ■トレードオフの分析

(上記重点的取組を推進した際に、トレードオフ(代償)としてどのような負の影響が生じるか、またそのことにどう対処していくか分析を記載)

定年年齢を70歳に引き上げ、高齢者継続雇用を実施することで、加齢に伴う体力低下の影響での業務効率低下、作業環境を整える為の費用増加による収益性低下、が考えられます。対処としては自社の技術を使い、省力化機械設備の開発制作、補助金の活用などが挙げられます。

(様式第2号) とっとりSDGs企業認証 チェックシート [2024年3月改訂版]

(企業名: 株式会社カガ技工

色付きのセルのみ入力してください

社会	9	○
経済	7	○
環境	11	○
合計	27	○

(○となった取組項目数とその各側面の判定)

(各側面で○となった取組項目数の合計と全体の判定)

番号	取組項目	必須	チェックリスト	チェック欄	判定	直近1年程度の具体的な取組 (更新申請においては、直近の認証期間中の具体的な取組)	2030年の目標	今後3年間の取組
社会1	労働災害の防止				○			
社会1			[KPI] 労働災害の年間発生件数			0件 同業他社の作業事故ニュース共有、労災防止ポスター掲示。	0件	
社会1			労働安全衛生に関して、経営層が専門家から指導・助言を受けている	✓		社労士と定期面談を行い指導を受けると共に情報を収集。	労働災害0件を継続させる。	【1年目】 安全意識を醸成する外部の活動に参加 【2年目】 労働安全衛生マネジメントシステム認証の取得に向けて準備を進める 【3年目】 労働安全衛生マネジメントシステム認証を取得
社会1		安全衛生委員会の設置など、社内体制を整備している	✓		各拠点に安全衛生担当者1名を設置している。			
社会1		★ 安全対策のルールやマニュアルなどを整備している	✓		直近では熱中症対策・処置フロー・連絡フローを整備			
社会1		★ 危険箇所・ヒヤリハットの情報収集、実態把握を行っている	✓		ヒヤリハット事例をミーティングで共有、場合により報告書を作成し帰属。			
社会1		労働災害の防止のための具体的な施設・設備の導入・改善を行っている	✓		工場内の滑り止めシート導入・動線見直し・人同士が衝突しないよう不必要な扉を閉鎖。			
社会1		労働安全衛生に関する研修を行っている	✓		安全衛生リーダー（有資格者）が各拠点を回り研修実施			
社会1		安全意識を醸成する外部の活動に参加している						
社会1		ISO45001などの労働安全衛生マネジメントシステム認証を取得している						
社会1		取引先において労災を誘発しないよう取引条件等に配慮している						
社会1		その他（※法令の規定への対応は対象外）						
社会2	ハラスメントの防止				○			
社会2			[KPI] ハラスメントの年間相談件数			0件	0件	
社会2			ハラスメント防止に関して、経営層が専門家から指導・助言を受けている	✓		社労士と定期面談を行い指導を受けると共に情報収集。	ハラスメント相談0件を継続できている。	【1年目】 ハラスメント事例集め、引き続き社内研修という形で実施。 【2年目】 ハラスメント防止の外部研修を検討。変化をつけて常に意識を持ってもらえるよう工夫。 【3年目】 相談窓口担当者を変える。固定化しない方がよいと考えます。相談しやすい人選が重要です。
社会2		ハラスメントを許さないことを経営トップがメッセージを発信している	✓		ハラスメント防止ポスターの掲示は経営トップからの指示であることを周知。			
社会2		★ ハラスメントに関する相談窓口を設置するなど、相談体制を整備している	✓		社内掲示ポスターに相談窓口2名（男性・女性）の携帯番号を記載し周知。			
社会2		★ 相談者・行為者等のプライバシー保護のための措置を講じ、周知している	✓		社内掲示ポスターに秘密厳守であることを記載し周知。			
社会2		ハラスメントを行った者に対する懲戒規程等を整備し、従業員に周知している	✓		就業規則に懲戒規程の明記があり周知。			
社会2		★ アンケートや面談などにより、実態把握を行っている	✓		明るい職場応援団サイト内のアンケートを利用。匿名で実施。退職面談時、ハラスメントを受けていなかったか、また見聞きしたことがないかをヒアリング。			
社会2		ハラスメント防止に関する研修を行っている	✓		明るい職場応援団サイト内の資料を利用し研修実施。			
社会2		社員同士以外のハラスメント（顧客、取引先、就活生等）の防止を図っている	✓		ホームページに公開しているCSRガイドラインに明記あり。			
社会2		その他（※法令の規定への対応は対象外）						
社会2								
社会3	女性の活躍				○			
社会3		★	[KPI] 全従業員に対する女性従業員の割合	✓		34%（女性従業員数17人）	50%	品質管理・品質保証など、体力を伴わない職種に女性を積極採用する。
社会3		★	[KPI] 管理職に占める女性労働者の割合	✓		0%（女性管理職数0人/全管理職員数5人）	20%	サブリーダー的な女性社員を管理職になれるよう育成。
社会3			[KPI] 男性従業員賞金の平均額に対する女性従業員賞金の平均額の割合			77%	80%	
社会3		★	[KPI] 男性従業員の育児休業等取得率	✓		該当者なし	100%	該当者には積極取得を推進。
社会3			女性の活躍に関して、経営層が専門家から指導・助言を受けている					女性の工場長が誕生している。男性の育休実績ができています。 【1年目】 女性専用の休憩室（休憩スペース）を作る。 【2年目】 輝く女性活躍パワーアップ企業またはえるばし認定を取得する。 【3年目】 輝く女性活躍パワーアップ企業またはえるばし認定を取得する。
社会3			女性の活躍について、会社の方針を表明している					
社会3		★	育児・介護に配慮した柔軟な勤務形態導入などの規程を整備している	✓		就業規則に明記あり。実際に管理職の男性が育児理由で勤務時刻の15分繰り下げを実施。		
社会3		★	自社の女性の活躍について、アンケート等により実態や課題を把握し分析している	✓		個別にキャリア面談を実施。配置転換の希望がないか、パート勤務者に時間を延ばしたいと正社員を希望するかなどをヒアリング。		
社会3			必要な施設・設備の導入、改善を行っている					
社会3			女性のキャリアアップに向けた研修の実施や、外部研修への参加を推奨している	✓		外部研修の情報を発信・共有。費用は会社負担で受講可能と案内。		
社会3			県の輝く女性活躍パワーアップ企業、国のえるばし認定等に登録されている					
社会3			その他（※法令の規定への対応は対象外）					
社会3								
社会3								
社会4	障がい者が働きやすい職場づくり				-			
社会5	多様な人材の活躍		※女性、障がい者以外の取組を記載、採用活動の記載は不要		○			
社会5			[KPI] 中途採用比率			100%	90%	
社会5			[KPI] 離職率または離職者数			0.40%	1%	
社会5			[KPI] 外国籍の社員数			0人	1人	
社会5			[KPI] 65歳以上の社員数			4人	5人	
社会5			多様な人材の活躍に関して、経営層が専門家から指導・助言を受けている（※本項目では、女性、障がい者以外の人材を対象）	✓		社労士からの指導、人材サービス会社から助言・情報収集	多様な人材が活躍する企業として有名になっている。	【1年目】 高齢者の特性に応じた施設設備の整備を進める。 【2年目】 外国人にも問題なくお願いできそうな業務を整備し外国人雇用を受け入れる。 【3年目】 高齢者は年々更に増えるため、引き続き施設設備の整備を進める。
社会5			多様な人材（属性、キャリア・経験など）の活躍について、会社の方針を表明している（※本項目では、女性、障がい者以外の人材を対象）	✓		募集要項には年齢不問・中途採用者や幅広い年齢層が活躍中と明示。産業雇用安定センターや人材サービス会社から早期退職者情報を得て説明会実施。専門キャリアのある65歳男性2名・50代女性1名（直近10年ブランクあり）を採用。		
社会5		★	経営層は、多様な人材との対話や、課題の把握・解決を実践している	✓		金融機関・信用調査機関・地域団体等から案内される場合には積極参加。		
社会5			同一労働同一賃金に基づき待遇格差解消に取り組んでいる	✓		パート勤務者全員の時間給を一律で100円アップ。一般社員（管理職・専門職を除く）とパート勤務者の1時間あたりの給与格差が大幅に縮小。		
社会5		★	非正規労働者の正規への転換など、非正規労働者の処遇改善を推進している	✓		積極的に進めている。事務・製造・品質管理でパートから正社員への登用実績あり。		
社会5			高齢者の特性に応じた仕事内容の工夫や施設整備、設備導入を行っている	✓		高所作業の免除。視力低下の方には大画面PCモニターを設置。		
社会5			外国人労働者の受け入れに関する体制づくりを行っている					
社会5			その他（※法令の規定への対応は対象外）					
社会5								
社会5								

番号	取組項目	必須	チェックリスト	チェック欄	判定	直近1年程度の具体的な取組 (更新申請においては、直近の認証期間中の具体的な取組)	2030年の目標	今後3年間の取組
社会6	多様な働き方の促進				○			
社会6			[KPI] ひとあたりの労働者の平均残業時間			15時間	10時間	
社会6			[KPI] 年次有給休暇の取得率			72%	80%	
社会6			多様な働き方に関して、経営層が専門家から指導・助言を受けている	✓		社労士からの指導、人材サービス会社から助言・情報収集		【1年目】 ・管理職の人事評価に、部下の残業時間や有給休暇取得状況を関連付ける 【2年目】 ・フレックスタイム・在宅勤務の導入。 【3年目】 ・従業員の副業を認める。
社会6			健康経営を経営方針として位置付けている	✓		社員の健康づくり宣言事業所に認定 ホームページに公開。		
社会6			管理職の人事評価に、部下の残業時間や有給休暇取得状況を関連付けている					
社会6			上記以外の休暇を取得しやすい独自の仕組みを設けている	✓		令和7年度より誕生日休暇導入、夏季休暇はお盆の時期に固定するのをやめて、7月から9月の間で自由に4日選べるように変更。		
社会6		★	フレックスタイムや在宅勤務、短時間勤務など柔軟な働き方に関する制度を設けている	✓		家庭の事情（育児）による勤務時間繰り下げ勤務を認めている。		
社会6			従業員の副業を認めている					
社会6		★	従業員へのヒアリングなどにより、課題等の実態把握を行っている	✓		定期的に個別面談を実施。結婚/離婚以外の事情で苗字が変わることになった社員が、できれば公にしたいくないとのことでビジネスネームとして入社時苗字のまま継続勤務。		
社会6			その他（※法令の規定への対応は対象外）					
社会7	労働者への人権配慮				○			
社会7		★	「ビジネスと人権」に関して、経営層が専門家から指導・助言を受けている	✓		社労士と定期面談を行い指導・助言を受けると共に情報収集。		【1年目】 ・研修実施。現状問題は起きないが油断せず、研修を続けることで意識を継続させる。 【2年目】 ・人権侵害等に関する苦情、引き続き0件を更新。 【3年目】 ・引き続き研修実施。
社会7			人権方針（人権ポリシー）を作成・公開している	✓		CSRガイドラインに項目ありホームページで公開。		
社会7			管理的地位にある従業員に対して、意識啓発や研修を行っている	✓		採用面接の対応をする管理者に対し、事前にNG質問や留意点を伝え意識啓発を行っている。		
社会7		★	雇用契約書の締結、または、労働条件通知書を交付している	✓		採用にあたっては必ず雇用契約書を締結。読み合わせに近い形で1項目ずつ説明を実施。		
社会7			人権関連トラブルについて、従業員や取引先向けアンケートや相談窓口設置を行っている					
社会7			取引先において強制労働、児童労働が排除されていることを確認している			ホームページに公開しているCSRガイドラインに強制労働・児童労働の禁止を明文化しているが、お取引先1件1件には確認していない。		
社会7			その他（※法令の規定への対応は対象外）					
社会8	社会配慮型商品・サービスの提供		※環境に関する内容は環境9に記載		○			
社会8			少数派や社会的弱者に配慮した商品・サービスの開発・提供を行っている					
社会8			上記以外の社会課題解決型の商品・サービスの開発・提供を行っている					
社会8			商品・サービスの開発・提供にあたり、利用者の安全性に配慮している	✓		ケガ等が起きやすい箇所を特定しその部分の安全性を高め製作	機械・食品・化粧品等の各部門で社会的配慮型商品を開発しお客様に提供している。	【1年目】 ・各部門で商品開発を行う 【2年目】 ・各部門で商品開発を行う 【3年目】 ・各部門で商品開発を行う
社会8			利用者からの意見・要望を取り入れるための窓口を設けている	✓		利用者から直接話しを聞き取り活かし報告している		
社会9	地産地消				○			
社会9			[KPI] 県内事業者からの調達率	✓		30%（件数ベース）	50%	
社会9			地域産業の発展や地域の事業者との共存共栄を経営方針に位置付けている	✓		ホームページ・企業ガイド・PR動画等では地域貢献を提唱。		【1年目】 ・パートナーシップ構築宣言 【2年目】 ・新たな地域資源商品を開発している。 【3年目】 ・新たな地域資源商品を開発・提供している。
社会9			パートナーシップ構築宣言を行っている					
社会9			地元事業者から、積極的・優先的に仕入れている	✓		40%地元産社からの資材調達、外注加工		
社会9			地域資源・地元産品を活用した商品・サービスを開発・提供している	✓		竹炭（全国シェアの60%）竹炭珈琲、健康食品原料製造サケ水漬等	地域資源を活用した商品を開発し、その商品が全国的にヒットしている。	
社会9			「食パラダイス鳥取県」アンバサダーに登録している	✓		2024年7月登録		
社会9			その他					
社会10	地域社会への貢献		※ビジネスとしての活動は社会8、環境に関するものは環境10に記載		-			
社会+	世界の子供たちに向けた支援		※社会1～10に該当しない項目について記載（該当するものは対象外）		○			
社会+			（右欄に具体的内容等を記載）	✓		ユニセフマンリースポルト支援で毎月の定額支援と戦争や災害時の子供たちへの単発支援を実施している。	引き続き実施する。	【1年目】 ・引き続き実施する。 【2年目】 ・引き続き実施する。 【3年目】 ・引き続き実施する。
経済1	事業継続計画（BCP）の策定		※自社自身の取組を記載（他者の支援は社会8または10で記載）		-			
経済2	セキュリティ対策				○			
経済2			セキュリティについて、専門機関の診断・指導を受けている	✓		外部コンサルからの指導で防犯カメラ設置		【1年目】 ・全社員向けにセキュリティ研修実施 【2年目】 ・情報セキュリティ管理者を設置 【3年目】 ・セキュリティ専門部署を設置
経済2			取引先や運送・清掃業者など、建物に出入りする者のセキュリティ上のルールを整備している	✓		入退室に関しては、セキュリティカードでの解除が必要のため、従業員向けの業者様でもインターホンを必ず押してもらっている。	セキュリティに関する事故0件。 ISMS認証またはPマークを取得している。	
経済2		★	個人情報や機密情報の入手、利用、保管、提供、消去等の取扱ルールを設けている	✓		秘密保持契約書を締結してから取引を開始している。従業員の個人情報は鍵付きのキャビネットに保管し常に施錠している。		
経済2			情報セキュリティに関する管理者や専門部署を設置している					
経済2			経営層や従業員に対して、専門家によるセキュリティ研修を行っている					
経済2		★	ウイルス対策ソフトの導入やOS等の定期的に更新している	✓		契約しているオフィスソリューションの専門家よりアドバイスを受け、定期的に更新している。		
経済2			重要な情報については、アクセス制限を行っている	✓		グループウェアやWEBタイムレコーダーのアクセス制限を行い、関係者以外はアクセスできないようにしている。		
経済2			ISMS認証やPマークなどを取得している					
経済2			その他、具体的なセキュリティ対策を実施している					
経済3	法令順守の取組の徹底（必須）				○			
経済3			コンプライアンスに関して、経営層が専門家から指導・助言を受けている	✓		不明点があれば顧問契約をしている弁護士・税理士・労務士・司法書士・弁理士に都度確認している。また法改正などの情報もいち早くキャッチできるようにしている。		【1年目】 ・コンプライアンス委員会の設置 【2年目】 ・社内でコンプライアンスの勉強会実施 【3年目】 ・外部のコンプライアンス研修を受講
経済3			経営トップが、法令順守することについて、社内外にメッセージを発信している	✓		ホームページや全社員が集まる社員総会で経営トップの言葉が発信している。		
経済3		★	自社事業に関わる法令を把握・社内共有し、遵守している	✓		モノづくり企業として製品安全に関する法令（PL法・食品衛生法・薬機法など）を中心に各事業部ごとに勉強会を実施し理解を深めている。管理部門は主に労働安全に関する法令を共有し遵守している。	引き続き法令を遵守し、社員一人一人が関連法令についての知識を有する状態になっている。	
経済3			コンプライアンス委員会の設置など、チェック体制を設けている					
経済3			公益通報制度（内部通報制度）を整備している	✓		目安箱を設置。		
経済3		★	コンプライアンスマニュアルなどの社内規定の作成し、社内に周知している	✓		マニュアルや社内規定は共有フォルダやグループウェア内のファイル管理に格納しており、常に確認できるようにしている。		
経済3			従業員に対するコンプライアンス研修を実施している					
経済3			その他（※法令の規定への対応は対象外）					
経済4	情報公開				-			

番号	取組項目	必須	チェックリスト	チェック欄	判定	直近1年程度の具体的な取組 (更新申請においては、直近の認証期間中の具体的な取組)	2030年の目標	今後3年間の取組	
経済5	後継者の確保				○				
経済5			<代表者が60歳以上の場合>円滑に事業承継を進めるため、相談機関や専門家等に相談するなど具体的な取組を行っている	✓		令和3年6月に創業者である70代社長が会長となり、40代の取締役が後継者として社長就任。円滑に進んだ。		現社長の後継者候補が選定されている。	
経済5			適性のある後継者候補を選定している	✓		後継者は社長就任前、米子商工会議所青年部の会長を継ぎ、リーダーシップを発揮していたので適正はあると考える。			
経済5			会社の資産や月次の資金繰り、株式の保有状況、経営者保証の状況など、経営状況・経営課題等を後継者候補が把握している	✓		上記新社長は金融機関・信用調査機関・税理士等と密に連絡をとり、自社の経営状況、経営課題を把握している。			
経済5			代表者一人に依存しない、経営体制を構築している	✓		社外取締役がおり、経営の透明性・公正性を確保。			
経済5			事故や病気など、経営者の有事のの際の対応方針を役員や従業員と共有している						
経済5			その他						
経済6	市場変化を見据えた対応				-				
経済7	自社以外の経営資源活用		※グループ企業間での取組は対象外		○				
経済7			大学や試験研究機関などの有する専門性を活用している	✓		県内外大学との共同研究、大手メーカーからの技術指導等。		戦略的な外部委託の利用が進んでいる。	
経済7			技術・ノウハウ、知的財産等に関する他社との連携・オープンイノベーションに取り組んでいる	✓		県内企業・産業技術センターと連携し、同一テーマで商品開発や特許申請を提出。			
経済7			副業・兼業などの外部専門人材や、土業等の専門家の知見を活用している	✓		弁護士・労務士・司法書士・弁理士と顧問契約を結び随時相談できる体制をつくり、それぞれの知見を活用。			
経済7			自社の中核事業と非中核事業を見極め、戦略的に外部委託を行っている	✓		繁忙期が決まっていない化粧品事業部での充てん作業は、以前はすべて自社で行っていたが必要人員数にばらつきがあり管理が難しく、アウトソーシングを積極的に活用。			
経済7			投資ファンドなどの外部資金を獲得している						
経済7			関係企業、業界団体のネットワークに参加し、情報収集や情報交換を行っている	✓		各事業部のキーとなる社員が、機械設備・食品・化粧品の各分野のネットワークに参加し情報交換を行っている。			
経済7			その他						
経済8	デジタル化による生産性向上				-				
経済9	雇用の維持・拡大		※採用活動そのものは対象外		○				
経済9	★	[KPI] 従業員数		✓		50名	70名		
経済9			採用後にミスマッチが起きないよう、インターンシップや内定後のフォローアップなどを行っている	✓		大学生、専門学校生のインターンシップ実施。		【1年目】 ・新規事業の人員確保と、 ・定年退職者が出る部署への採用を同時に進め、平均年齢が上がってきており新卒や若年層の採用も合わせて進めている。 【2年目】 ・新規事業の人員確保と、 ・定年退職者が出る部署への採用を同時に進め、平均年齢が上がってきており新卒や若年層の採用も合わせて進めている。 【3年目】 ・新規事業の人員確保と、 ・定年退職者が出る部署への採用を同時に進め、平均年齢が上がってきており新卒や若年層の採用も合わせて進めている。	
経済9			会社の成長・発展に向けた事業転換や経営の多角化、設備投資を行っている	✓		食品機械の製作・修理からスタートした当社「食品」をドメインに事業展開を行っている。近年はゼリー菓子製造のグループ会社を設立し最終製品を製造。			
経済9			新規出店や商圏拡大、M&Aなどの事業拡大に取り組んでいる	✓		鉄工所、パン屋をM & A。グループとしての雇用数は大幅に伸びた。			
経済9			事業転換や多角化、商圏拡大などの方針を踏まえた人材のスキル転換、処遇改善、採用活動を行っている	✓		令和7年は、製造業としてこれまでの事業の延長線上上ではあるが新たな分野に挑戦。その為の高スキル人材に処遇を改善して採用活動を行っている。			
経済9			人材確保のため、物価上昇率なども勘案し、賃上げ（ベースアップ）を行っている	✓		2024年5月にパート勤務者全員の時給を一律で100円アップ。自社内最低時給が1020円となった。（その後2024年10月に鳥取県の最低賃金が900円→957円になった。）			
経済9			離職防止、ES向上に向けた取組を行っている	✓		福利厚生充実を図っている。企業型DC・誕生日プレゼント・年末商品（クリスマスケーキ・餅・冷凍食品等）の贈呈。			
経済9			その他						
経済10	人材育成・能力開発				○				
経済10			経営層関与の下、従業員の能力向上に向け、一定の予算を確保し、人材育成に取り組む方針を示している	✓		マネジメント研修・問題解決力向上研修等を会場を借りて集合研修という形で実施。Eラーニングに比べ費用はかかるが、会社として人材育成に取り組む方針を示している。			【1年目】 ・人事評価制度の見直し ・評価者の担当人数を少なくする。 【2年目】 ・メンター制度を導入 【3年目】 ・メンター制度をPDCAサイクルで進め、うまく回るようにしていく。 メンター制度を導入し、うまく回っている。新入社員の定着率が向上し、社員同士のコミュニケーションが活発になっている。
経済10			業務に必要なスキルマップを作成・更新している	✓		スキルマップは製造部門と品質管理部門で作成運用している			
経済10			従業員のスキルを定期的に把握し、能力開発計画を策定・更新している	✓		人事評価制度に則り、業務の力量把握を行っている。			
経済10			外部研修への参加やEラーニングの活用を奨励し、積極的に受講させている	✓		外部研修の受講奨励はしている。新入社員にはゼジネスマター研修、品質管理社員には微生物検査手法研修、エンドトキシン測定器セミナーなど業務に即した研修の受講もさせている。			
経済10			OJTの質の向上に向けた業務内容のマニュアル化やマニュアルの見直し、トレーナー教育を行っている						
経済10			ジョブローテーションにより、計画的に従業員のスキルアップ・多能工化を図っている	✓		配属拠点にこだわらず、他工場への作業応援を積極的に実施し、事務職が製造応援に入ることもある。多能工化を進めている。			
経済10			能力の向上を人事評価や処遇に反映させる仕組みを設けている			評価制度は導入しているが評価者の評価が正しいかの判断が難しく、処遇に反映させるまでには至っていない。			
経済10			従業員の資格取得を推奨し、要する費用を支援している	✓		フォークリフト免許の取得は勤務時間中に通わせて費用全額会社負担。その他、化粧品検定や技術士資格取得のための教材費用を会社負担している。			
経済10			その他						
経済+	【地元企業の事業継承に貢献】		※経済1～10に該当しない項目について記載（該当するものは対象外）		○				
経済+			(右欄に具体的内容等を記載)	✓		経営不振・後継者不在等で事業承継が難しい会社に対し、グループ化（M & A）や経営協力支援を行った。鳥取県内23社（鉄鋼業・製鉛・製パン）	自社事業と親和性のある業種を中心に、この地で共に存続していけるよう、M & Aや提携を進めている。	【1年目】 ・水産会社との提携・事業譲受 【2年目】 ・設備工事会社との提携・事業譲受 【3年目】 ・食品会社との提携・事業譲受	
環境1	自然環境の変化が経営にもたらす影響		【気候変動リスク・機会の分析・対策①】		○	分析・検討内容を記載			
環境1		★	リスクを特定している（気候変動による災害リスクの主なもの 急性リスク：洪水、台風、自然火災等／慢性リスク：海面上昇、高温、水不足等）	✓		電気及び水を念頭に蓄電池及び雨水受水槽を準備、高温対策を準備（散水使用）	水の確保が重要と捉え50トンのタンク類を設置し工業用水や雨水を保管し又小型手動型の飲料製造装置も準備定期的な保管水利用の訓練を実施	工場屋根（折版）の劣化が認められており、耐熱塗装を行い又雨水に依る散水を実施し、工場内温度低下に取組み（機器設備は中古品等利用）データを取り共有化し、取組み意識の向上を図る。※竹内工場で実施	
環境1		★	上記リスクの自社への影響を分析している（特定したリスクそれぞれについて記載）	✓		稼働率の高い製造設備を稼働させる為、自家発電及び飲料水ろ過機を検討、水冷却を検討（水冷却は必需）			
環境1		★	上記リスクについて優先順位（発生頻度×影響の重大性）をつけている	✓		全国区商品原料加工のBCMの観点から必須項目			
環境1			上記リスクへの対策を進めている	✓		最低限の簡易設備をまとめている。			
環境1			自然環境の変化による機会について分析している	✓		自然環境の変化は明かに温暖化が最大の原因と捉え準備を進行中			

番号	取組項目	必須	チェックリスト	チェック欄	判定	直近1年程度の具体的な取組 (更新申請においては、直近の認証期間中の具体的な取組)	2030年の目標	今後3年間の取組
環境2	社会・制度の変化が経営にもたらす影響		【気候変動リスク・機会の分析・対策②】		○	分析・検討内容を記載		
環境2		★	リスクを特定している（気候変動による社会・制度に関する4種類のリスク：政策・法規制、技術、市場、評判）	✓	○	気候変動により、廃棄原料が変わる可能性が大で、養殖魚に 変化の可能性大。技術的データの再構築を要する	自国第一主義が世界的 にどの様な形で進むのか 不安があり又人口減少と 高齢化が進む中やはり、 海外への進出を模索して いる年数となっている	原料に付いて当初より弊社 直接購入はローラン原料 のウロコのみで他は原料支 給であり、今後高温生息魚 への移行も検討済なので、 各大陸での硬質魚鱗魚の 量と分析をデータを纏める。 ※青魚は利用不可。
環境2		上記リスクの自社への影響を分析している（特定したリスクそれぞれについて記載）	✓	○	生息地域により成分や物性、収率が変わる為時間と費用も 掛かる			
環境2		上記リスクについて優先順位（発生頻度×影響の重大性）をつけている	✓	○	現在、東南アジア⇒中国、アフリカ、インド等に移行の可能性有 り			
環境2		上記リスクへの対策を進めている	✓	○	逐次、商社より情報をいただき検討。			
環境2			社会・制度の変化による機会について分析している	✓	○	事前に次年度の状況確認を都度実施し準備対応している		
環境3	自社の事業活動が引き起こす影響		【環境負荷リスクの分析・対策】		○	分析・検討内容を記載		
環境3		★	自社の事業活動（原材料・エネルギーの調達、生産、販売、使用、物流等）が環境に与える負荷（CO2や廃棄物、化学物質等の排出、大気汚染や生物多様性、海や森林にどう影響するか）について、分析している	✓	○	我が社の経営理念に2年前より資源を活かす経営を新たに入れ 研究を進め、特許も取得し商品化を目指しており、直接廃棄よ り成分抽出や粉化はCO2は高値となる	近年ゲリラ豪雨が頻繁 にあり毎年の様に災害が 発生しているが、やはり森 林を増やす活動は必要で あり積極的にJクレジット や植林活動に関わる	各国平和維持継続が脅か されて来、何年モミサリ攻 撃や核の脅威の中犠牲者も 増え続け止血剤の需要が増 えて居り、弊社が令和7年 秋より製造開始する医薬品 原料が期待されますが、海 藻類が原料なので、環境負 荷の影響を調査する。（原 料と消費量）
環境3		自社の製品・サービスが利用され、最終的に廃棄されることで環境に与える負荷について、分析している	✓	○	自社の製品等が最終的に廃棄の方向に向けは再処理に依り 飼料等に活用（一部はテスト済）サンプル提供も可能			
環境3		自社の事業活動が環境負荷の軽減に貢献する機会について分析している						
環境4	燃料消費量の可視化と削減 (Scope1)		【カーボンニュートラル①<省エネ>】		○			
環境4		★	[KPI] Scope1のCO2排出量	✓	○	499.3t-CO2 (2024年度)	700 t -CO2	2工場増と増産予定
環境4			専門家による省エネ診断を実施し、削減に向けた助言・指導を受けている	✓	○	ボイラメーカー等に依る削減取組資料説明を受けている		【1年目】 ・メーカー指導に依り省エネ 3%を削減 【2年目】 ・油焚きボイラをガス焚きに 全て取替完了 【3年目】 ・高効率ボイラに取替省エネ 5%削減達成（更新時期分）
環境4			省エネ設備（高効率ボイラ等）の導入・更新を行っている	✓	○	油焚きボイラの効率化の一部*1を回収し給水に使用		
環境4			EMS（エネルギーマネジメントシステム）を導入し、エネルギーの使用状況を可視化やエネルギー運用の効率化を行っている	✓	○	システムとしては未導入、機器の使用データ記入で状況確認		
環境4			CO2総排出量削減のための燃料を電気や都市ガスへ切り替えている	✓	○	油焚きボイラをガス焚きボイラに変える為ガス焚きを購入、現在 8台中6台をガス焚きに	省エネ20%削減達成	
環境4			燃料消費量低減につながる設備等の運転を行っている	✓	○	ボイラにエコマイザーを取付、熱回収運転を1台づつ進めてい る		
環境4			その他					
環境5	電力消費量の可視化と削減 (Scope2)		【カーボンニュートラル②<省エネ>】		○			
環境5		★	[KPI] Scope2のCO2排出量	✓	○	500.4t-CO2 (2024年度)	650t-CO2	2工場増と増産予定
環境5			専門家による省エネ診断を実施し、削減に向けた助言・指導を受けている	✓	○			【1年目】 ・全ての工場のLED照明完 【2年目】 ・各機械装置のエネルギー 使用量の可視化を進める 【3年目】 ・空調を高効率に取替完 ・単工場の可視化完5工場の 内1～2工場完了
環境5			省エネ設備（LED照明、高効率空調等）の導入・更新を行っている	✓	○	各工場5工場のうち4工場の照明をLEDに又空調も高効率に 取替済		
環境5			EMS（エネルギーマネジメントシステム）を導入し、エネルギーの使用状況を可視化やエネルギー運用の効率化を行っている	✓	○	システムは導入していないが、計測機器を装置に取付て処理量と 使用エネルギー量でkg当りの数値を出し統計処理している	エネルギーの可視化完、 太陽光発電の自己消費 率アップとパネルの50% 増設完	
環境5			省エネに対応した建物改修を行っている	✓	○	当面窓ガラスに熱遮断フィルムを貼付け空調の負荷を低減		
環境5			節電マニュアルを作成し実践している	✓	○	現状はポップ等で周知実践		
環境5			その他			*1 排水管のカール防止（洗浄と薬品管理）で0%を抑えている		
環境6	再生可能エネルギーの導入		【カーボンニュートラル③<創エネ>】		○			
環境6		★	[KPI] 全使用電力に占める再生エネ電力の割合	✓	○	5～10%程度：熱回収と効率アップを基本とした消費削減量	5～10%新設備見極め	2工場増と増産予定
環境6			再生エネ設備を設置し、発電した電気や発生した熱を自家消費している（売電など他社へ供給している場合は環境9へ）	✓	○	熱回収による自家消費*1 給水10℃以上UP・熱風乾燥機 にフレック供給（給水温度加温・エロファンチュア）熱源に使用）	8台のボイラの更新時期 を迎えるので高効率ボイラ に変える。又水素ボイラも 普及し始めているのでど かが選定	【1年目】 ・グリーン電力証明の推進化 【2年目】 ・全ての工場で熱回収を完 【3年目】 ・1工場増となるが油焚きな のでガス焚きに替えてガ ス化完了
環境6			グリーン電力証書の活用など、再生エネ由来の電力を調達している			未調達		
環境6			その他					
環境7	廃棄物の削減		※自社自身の取組を記載（他者を促す内容は環境9で記載）		○			
環境7		★	[KPI] 総廃棄物発生量（※産業廃棄物だけでなく事業系一般廃棄物等も含む）	✓	○	25、1t（業者回収廃棄物）*1は樹脂使用で使い回し	40t（再利用再生は検討課題）	2工場増と増産予定
環境7			事業別、事業所別の廃棄物排出量について、インバクトの大きな内訳を把握・分析している	✓	○	可燃廃棄物が多く、生ごみは有効活用や脱水に依る軽量化で 缶・瓶類と同じ収集業者回収	【1年目】 ・ペーパーレス化の推進で可 燃物量を削減する 【2年目】 ・材料在庫可視化を進め設 計見積時に組入れ在庫減 【3年目】 ・廃棄物の有効利用で再処 理費を押える為、再生エネの 活用を安定化させる。	
環境7			廃棄物削減についての計画を策定し、具体的な取組を行っている	✓	○	廃棄材、スクラップ等は試作や研修に利用し又低価格帯での 商品へ変えている。自社活用含む、ダンボールは再利用する	当初の設計で必要使用 材料のロス無くす為、細 分した材料購入化を推 進し10%以下にする。未 利用資源の廃棄物は無 限にあり100%の有効活 用を基本に各方面の機 関や企業と研究開発を 推進し新たな柱を創造 する。	
環境7			フードバンクやフードドライブ、フードシェアリングなどにより食品廃棄物削減を推進している	✓	○			
環境7			調達・設計・製造段階で、廃棄物をできるだけ出さないような対応を行っている	✓	○	在庫数量を把握し鋼材、機器類、ダンボール等は再利用		
環境7			製品・サービスの提供段階で、廃棄物をできるだけ出さないような対応を行っている	✓	○	多量の廃棄物利用に関しては、処理装置も開発し特許も申 請。また、負荷の軽減で新たな商品開発を推進している。		
環境7			廃棄物を資源として再利用することを事業実施上の仕組みとして取り入れている	✓	○	経営理念も「資源を活かした知的資産経営」を入れ積極的に 資源の有効活用を推進している。		
環境7			その他（※法令の規定への対応は対象外）	✓	○	外注加工で発生する生ごみは、野菜栽培農地で活用（安来市、干拓地にて活用）		
環境8	水資源の適正な管理		※自社自身の取組を記載（他者を促す内容は環境9で記載）		○			
環境8		★	[KPI] 年間使用量	✓	○	33,400m <sup>3</sup>	34,500m <sup>3</sup> （工水含む）	2工場増と増産予定
環境8			事業別、事業所別の使用量について、インバクトの大きな内訳を把握・分析している	✓	○	各工場別使用水量を日々記録して、生産量当りの使用水量 を出している。	工業用水の活用を推進 し熱中症対策や、冷却水 対応・緊急用飲料水製 造への対応を進める。 （定期的な製造テストと 併用）	【1年目】 ・生産量に対する必要用 量目標として明記、結果の 共有化推進 【2年目】 ・分析値の共有と結果アク ションの迅速対応処理、推 進 【3年目】 ・昭和町工場が増となるが 汚水処理公社への排水供 給となる為分析回収を増や し社との共有を推進する
環境8		水使用量削減についての計画を策定し、具体的な取組を行っている	✓	○	使用設備機器に流量計を取付データを取り突発的な数値に 対しアクションを起こす			
環境8		水質汚濁防止法等に基づき、排水の水質等について、適正な管理・運用を行っている	✓	○	3回/月排水分析を実施し下水道へ流している			
環境8		工場内等で水を循環利用するための施設を整備している	✓	○	冷却水循環装置、ドレン回収を整備している。			
環境8			その他（※法令の規定への対応は対象外）	✓	○	上水から一部工業用水の検討を始めた		

番号	取組項目	必須	チェックリスト	チェック欄	判定	直近1年程度の具体的な取組 (更新申請においては、直近の認証期間中の具体的な取組)	2030年の目標	今後3年間の取組
環境9	環境配慮型商品・サービスの提供				○			
環境9			グリーン商品の認定取得している			未取得	温暖化が進むので、温暖化を活用した製造装置を開発。(乾燥装置・温風発生機等)	【1年目】 ・グリーン商品の学習 【2年目】 ・再エネ設備の検討会発足 【3年目】 ・再エネ設備の導入計画作成
環境9		製品別カーボンフットプリントを算出し、製品・サービスに表示している						
環境9		生分解性など、廃棄時に環境負荷が少ない素材を使った製品を開発・販売している	✓		有機物が多く分解性にすぐれていて環境に優しい			
環境9		再エネ設備を設置し、発電した電気をFIT売電したり、発生した熱を他者に供給している(自家消費している場合は環境6へ)	✓		ソーラーパネル305枚を設置発電施設として運転し売電			
環境9		上記以外の環境課題解決型の商品・サービスの開発・提供を行っている						
環境10	環境面での社会貢献		※ビジネスとしての活動は環境9に記載		○			
環境10			会社として、道路・海岸や砂丘など、地域の清掃活動を行っている	✓		各工場周辺及び公園等の清掃	継続可能な独自の社会貢献活動を始める	【1年目】 ・Jクレジット7回目購入・各工場毎ではなく全体での清掃活動実施 【2年目】 ・Jクレジット8回目購入・境考学参加・境港総合高校とのコラボ商品開発 【3年目】 ・Jクレジット9回目購入・境考学参加・境港総合高校とのコラボ商品開発継続
環境10		調達時には、グリーン商品や森林認証(FSC、SGEC)を受けた商品など、環境に優しい商品を選定している						
環境10		生物多様性の保全のための植樹活動や野生鳥獣保護活動を行っている	✓		野鳥の会で、清掃活動・鶏の巣箱や関連グッズ等の購入で資金応援			
環境10		J-クレジット購入又は共生の森づくりへの参加により、地域の森林保全に貢献している	✓		令和元年年より5年間毎年日南町のJクレジット50%、/回を購入。今後も継続購入予定			
環境10		学校や地域に対して、環境教育活動を実施している	✓		境高校1年生を対象に「境孝学」に参加SDGs活動の説明			
環境10		環境保全のための寄附、寄贈等を実施している	✓		私募債等で実験機器等を寄贈			
環境10		その他	✓		境港総合高校とのコラボ商品開発2回目			
環境+	未利用資源の活用		※環境1~10に該当しない項目について記載(該当するものは対象外)		○			2年目・3年目の継続
環境+			(右欄に具体的内容等を記載)	✓		竹林整備に依り出る竹を炭製造し鳥取県産食品竹炭及び添加物として全国シェア50%以上までにし、今後も成長産業成長の可能性大の産業。用途：チョコレート・黒ゴマ等食品の色付け(変色防止)、健康食品・竹炭ドリップコーヒーは令和6年特許取得。灰分低減品竹炭の開発	竹林整備は継続されるので、高齢化で廃業される会社も想定されるので、竹炭の新たな商品開発を推進すると共に若者が働けるシステムを構築する。	【1年目】 ・灰分低減竹炭の増産 【2年目】 ・竹炭商品の機能性評価の実用化 【3年目】 ・国外特許の取得